

講義名	オ)基礎技能B(数的処理)		
担当教員	川合 宏之		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
 ビジネス社会では複雑な計算や大量のデータ処理にコンピュータを用い、多数のデータの中から役立つ情報を適切に取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う。そのための数的処理能力は不可欠である。
 出題範囲は、基本的な解法パターンを身につけることができる。本講義では、民間企業において入社試験の1つとして、多くの企業で活用されている「SPI 試験」の対策を立て方を学ぶ。文系の学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野を中心に頻出問題・必出問題についての基本的な解法パターンを学ぶ。自分の志望企業で社会人としてのスタートを切るためにも、民間企業就職を希望する学生の進路を助める。

到達目標
 ・基本的な計算処理及び論理的思考を理解し、数的問題の解を得ることができる。
 ・出題範囲を知り、基本的な解法パターンを身につけることができる。
 ・得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくすることができる。

提出課題
 毎回、演習課題を与えるので、能動的に演習し数的問題の解を求めること。また、授業中に完成できなかった演習課題は、次回までに完成させておくこと。そして、次項に示す「準備学修(予習・復習等)」の具体的な内容及びそれに必要な時間」に示した主体的学習を期待する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
 授業内で実施した演習課題等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。

評価の基準
 プリントの課題(60%)、毎時の授業への参加度・積極性(40%)により総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他
 ・株式会社イング(学研グループ)のテキストを使用する。
 ・試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。
 ・本講義は原則対面で行うが、通学困難者向けに別途オンライン講義対応を行う。詳細は講義連絡を確認すること。
 ・新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスが修正される可能性がある。

教科書			
.数的処理テキスト	株式会社イング(学研グループ)	株式会社イング(学研グループ)	

プリント資料及び参考文献
 必要に応じて授業の中で紹介する。

授業計画

- 第1回 数的処理の概要及び数学基礎(受講ルール、方程式等の数学基礎、就職試験との関わり等)
 - 第2回 方程式(文字数の計算、方程式、数列等)
 - 第3回 割合(元の量、比べる量、割合、比率等)
 - 第4回 損益算(原価、売値、利益、損益、利益率、割引率等)
 - 第5回 仕事算(仕事の量と仕事の分り、仕事時間の計算等)
 - 第6回 濃度算その1(全体量と当該物の量、濃度表、簡単な濃度計算等)
 - 第7回 濃度算その2(各種濃度計算等)
 - 第8回 速度算その1(時間・距離・速度、速度変化、時刻表等)
 - 第9回 速度算その2(旅人算、追いつけ算、流水算、通過算等)
 - 第10回 順列・組み合わせ(順列、円順列、組み合わせ等)
 - 第11回 確率(確率、コイン問題、サイコロ問題、くじ引き問題等)
 - 第12回 論理(命題、対偶、三段論法等)
 - 第13回 集合(集合、条件、グループ分け、キャロル表、線分図等)
 - 第14回 資料の読み取り(表・グラフの読み取り、各種グラフの選択等)
 - 第15回 学習のまとめ(既習事項の要点整理)
- ・受講者数や状況に応じて講義内容やスケジュールは変更される可能性がある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)			
	ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
	ウ:ディスカッション、ディベート		エ:グループワーク
	オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク
	キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
 ・講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。(約1.0時間)
 ・講義後は内容を復習し、確認演習に取り組み、理解度を確認しておくこと。(約3.0時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、「気づきの教育」の一環として、自ら気づくことに資する科目である。本科目は、ビジネス社会で必要とされる、多数のデータの中から役立つ情報を適切に取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う数的処理能力を身につけることができる。それによって、本学の教育の目標である「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」の育成を達成する。さらに、学生が苦手意識を持ちやすい就職試験(SPI非言語分野)の問題について、得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくし、就職力を高めることにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
 上記の授業担当者：株式会社イング(学研グループ)専任講師